

新秋地総第504号
令和2年6月8日

秋葉区自治協議会会長
金子 洋二 様

新潟市秋葉区長 夏目 久義
(秋葉区役所地域総務課)

区政運営にかかる評価について（参考意見聴取）

本市では、年度当初に区長による「区組織目標」を策定し、その方針に基づいて、区政運営の重点取組事項を設定しています。また年度末には、その取り組みに対して、区長による自己評価を行い、次年度以降の方針策定等に反映させております。

この自己評価を補うとともに、効果・効率的な事業実施や次年度予算の編成の参考にさせていただくため、貴自治協議会に下記事項について区長が行った自己評価に対する意見を求めます。

記

- ・ 令和元年度 秋葉区組織目標
- ・ 令和元年度 区組織目標に掲げた取組の指標（関係課組織目標）

令和元年度 秋葉区組織目標

組織名	秋葉区	部長	秋葉区長 夏目 久義
組織の目的・方向性	秋葉区では、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「花と緑に囲まれた、笑顔咲きそろう、にぎわいのあるまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かしたまちづくりを推進します。		

秋葉区組織目標

秋葉区では、産学官・地域等と連携してまちの活性化と人材(人財)育成を進めるとともに、区民の地域への愛着や誇りを育み、地域資源を生かして交流人口や定住人口の拡大を図ります。

この方針のもと、今年度は次の4つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 産学官及び地域等と連携し、まちなか活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人材(人財)育成等に向けた主体的な取り組みを進めるとともに、AKIHASUMU プロジェクトの理念に基づき、秋葉区の特性或魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進の支援や、市民活動に取り組む新たな人材(人財)を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。
- 2 住民主体の地域活動の深化に向け、コミュニティ協議会と協働で地域課題の解決や地域づくりを推進します。地域と学校の連携による、区の宝を学ぶ子どもの地域学習の場を支援します。
- 3 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及し、地域住民や関係機関と連携・協力することで、健康づくりや福祉課題を解決する取り組みの支援と活動を推進します。地域包括ケアシステムによる生活支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、継続的な支援と仕組みづくりに取り組んでいきます。
- 4 里山の魅力発信や里山と結びつけたまちなかの活性化、次世代につながる環境教育を行います。また鉄道、花と緑、史跡など恵まれた地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	4	達成数	4
取組結果	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか活性化実行委員会において、地域や商店街等と連携しながら大学の知的資産や学生の感性を生かし、まちなかの活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人材育成など継続的に取り組みました。 ・SNSフォトコンテストの実施や大型バナーの設置拡大等を通して、区のイメージを戦略的に発信しました。 ・移住・定住支援においては、移住者支援制度の拡充や首都圏に向けたPR、移住体験ツアーの複数プラン化、各モデル地区における地域活動への支援を行いました。 ・女子の視点からまちづくりを考えるプロジェクトを継続実施することで、新たな人財の発掘・育成を行い、さらに各プロジェクトの主体的運営に向けた支援を行いました。 				
	<p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区懇談会の開催により各地域の課題解決に向けた具体的な検討や対応を行うとともに、日常的な地域づくりにおける各種相談や補助金交付等の支援を行うことで住民主体の地域づくりを支援しました。 ・学校と地域や団体との連携により「みりょくノート」の活用や里山など区の宝を子どもの地域学習に活かす支援を継続して実施しました。 				
	<p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予防事業については、地域の団体に働きかけするなどして取り組んだところ、地域からの依頼が多かったため、参加者が目標を大幅に超え、広く周知を図ることができました。 ・認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進（キャラバンメイト連絡会の支援）については、指標に掲げた認知症カフェのほか、認知症講演会に約230人の参加があり好評でした。 				
	<p>【重点目標 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山魅力発信については Akiha マウンテンプレーパーク事業を実施し、次代を担う子ども達への里山体験による人格形成に有効との評判です。また、里山ボランティアガイドによる里山ガイド事業も多くの方に利用いただきました。 ・新津丘陵に点在する里山ビジターセンター、石油の世界館、花の湯館による事業連携と宣伝・誘客への取り組みに一定の集客効果が見られました。特に、里山ビジターセンターは認知度の向上により来館者が増加しました。 ・Akiha レール浪漫事業では、新津駅東口「あ！キハ」観光案内所の開設や観光ボランティアとの「鉄道まち歩き」の実施などで一定の賑わいがありました。特に、夏休み期間中に新津駅に來られた方への情報提供等は好評で、「鉄道の街にいつ」のPRとリピーターづくりに繋がりました。 ・Akiha 花一番 PR 事業では市場関係者を招いての花見本市が好評で、昨年以上の契約実績を上げることができました。 				

【重点目標 1】

- ・産学官、地域等との連携をより深めながら、学生や商店街、地域住民との協働によるまちなかの活性化に向けた各種取組みを推進します。
- ・A k i h a sumu プロジェクトの継続により、「住んでよかったと思えるまちづくり」を目指し、秋葉区のブランド化や地域アイデンティティの醸成を図ることで、さらなる人財の発掘・育成や地域主体の移住・定住の促進など地域・住民主体のまちづくりを推進します。

【重点目標 2】

- ・コミュニティ協議会との連携、協働による地域課題の解決や地域づくりを進めることで、地域住民の主体的な地域活動を推進します。
- ・地域や団体と連携し、区内外に向け秋葉区の個性を活かした地域学習や体験の機会を引き続き設けることで、地域アイデンティティの醸成を図ります。

【重点目標 3】

- ・地域住民や関係機関と連携・協力しながら、引き続き、健康づくりや福祉課題を解決する取組みの支援と活動を推進します。
- ・モデル地区におけるフレイルチェックの実施や子育てサポーターの養成などあらたな取組みを通じて健康づくりや子育て支援をすすめます。

【重点目標 4】

- ・里山の魅力発信は点在する各施設による広報、宣伝のほか連携事業による各種事業に取り組みます。
- ・地域資源「鉄道」「園芸」「里山」を活かして、新潟 DC に合わせて関係組織と連携し各種事業を実施し、全国からの集客を図ります。

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号)	0250-25-5451
------------	--------------

年度	2019		
組織名(部)	秋葉区役所	組織名(準部・課・機関名)	地域総務課
組織の目的	区の魅力発信や課題解決につなげるため、産学官、地域等との連携によるまちなか活性化や健康づくり、里山の魅力発信等をより主体的に行います。「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。地域コミュニティの主体的な取り組みを支援し、地域課題解決に対応した組織や活動の活性化を支援します。安心安全なまちづくりを推進するため、防災対策に取り組めます。また区役所が率先して省エネルギーによる環境負荷の低減に取り組めます。		

作成日	平成31年4月1日
修正日	
評価日	令和2年3月31日

No.	部 区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価		
				項目(単位)	2016実績	2017実績	2018実績	2019目標	2019結果			補足・参考指標	
1		産学官及び地域等と連携し、新潟薬科大学が持つ知的資産と学生の感性やパワーを積極的に活かし、まちなか活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人財育成等に向けた主体的な取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> まちなか活性化実行委員会の開催 産学官連携による人財(学生)育成 	全体会議の開催数(回) 学生の地域づくり体験活動実施回数(回)	4	3	3	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関等との調整、事業の進行管理 H29-31学生コミュニティフィールドワーク 	・全体会議:第1回 6月5日 第2回 11月12日 第3回 2月18日 ・コミュニティフィールドワーク 9月12~18日実施(12・13・17・18日)	達成
2	1	「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> 秋葉区ブランドや魅力の発信 秋葉区移住体験ツアー 移住モデル地区等への支援 	支援を行う地区数	-	-	3	3	5(2)	<ul style="list-style-type: none"> 地域主体による魅力発信や移住者受入体制整備を支援 11月28日、金津・朝日の移住推進モデル地区に塩谷・割町を加え「金津里山地区」としてHAPPYターンモデル指定となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月末~SNSフォトコンテストを開催し、入賞作品を大型バナーとして掲示しました。 2地区(1コミ協、4自治会・町内会)の移住者受入体制づくりや首都圏でのPRを支援し、プランと日程を選択可能な移住体験ツアーを企画しました。 	<ul style="list-style-type: none"> Akihaきらきらプロジェクトでは、あきは春まつり等のイベント出演や、まち暮らしマップの作成・配布及び妄想会議開催等のAkiha女子が参加実施するまちづくり企画を支援 教育懇談会 8月6日(日) 15:00~17:15 新潟薬科大学新津駅東CP 参加者(74人) 	達成
3	2	住民主体の地域活動の深化に向け、コミュニティ協議会と協働で地域課題の解決や地域づくりを推進します。地域と学校の連携による、区の宝を学ぶ子どもの地域学習の場を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題の解決策や区政の取り組みをテーマに、区長との意見交換を中心とした地区懇談会の開催 	地区懇談会開催回数(回)	11	11	11	11	11	11	<ul style="list-style-type: none"> 地域からの課題をもとに意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 区内11の地域コミュニティ協議会と地域課題の解決を探るための地区懇談会を開催 地域と連携し、「みりよくノート」(平成28年度発行)を活用し、また、里山など区の宝を子どもの地域学習に活かすことで、秋葉区への愛着や誇りを育てています。 最終実施校:区内小学校 全12校 	達成
4		区民との協働により、災害に強いまちづくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織結成説明会の開催 結成助成、活動助成事業の実施 自主防災組織リーダー研修会の実施 	自主防災組織結成世帯数 【結成世帯数率%】	21,994	22,685	23,362	23,472	23,705	23,705	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年4月1日現在数 秋葉区総世帯数 26,579 秋葉区総自治会数 165 目標の自主防災組織結成世帯数は、年度当初総世帯数の89%相当。 	<ul style="list-style-type: none"> 2自治会で自主防災組織を結成しました。 結成世帯数は23,705世帯、結成世帯数率は89.2%となっています。 	達成
5		地球温暖化対策に区役所が率先して取り組み、省エネルギー化による温室効果ガス排出量の削減に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 官民協働により低炭素エネルギーの調達やエネルギーデータの活用について検討する。 照明器具のLEDへの改修や空調の温度管理により電気使用量の削減を図る。 	庁舎における電気使用量(kw)の前年度実績との比較	337,364	320,354(△5.1%)	304,615(△4.9%)	301,568(△1.0%)	321,508(+5.5%)	321,508(+5.5%)	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年3月から太陽光発電設備を設置し稼働したことで、平成30年度は電気使用量のうち年間約8.6%を太陽光発電で対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 統一地方選挙及び参議院議員選挙があり、電気使用量が増加しました。 空調の温度管理の徹底や、執務室照明LED化を行い電力量増加を最小限に抑制しています。 	未達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
産学官及び地域等との連携を深めながら、まちなかの活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人財育成等をより主体的に行います。「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性や魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図ります。地域主体による移住・定住促進へ向けた取り組みを支援するとともに、市民活動に取り組む新たな人財を発掘・育成することで、地域・住民主体による魅力あるまちづくりを進めます。地域コミュニティ協議会と連携・協力し、区や地域の課題等について意見交換し、具体的方策・対応を共有・検討します。地域と連携しながら、区の宝を子どもの地域学習の場として活用し、ふるさとへの愛着や誇りを育みます。子どもたちが健やかに育んでいくための環境づくりを話し合う教育懇談会を開催します。災害に強いまちづくりを推進するため、自主防災組織の結成に向け、未結成自治会等への結成説明会を開催し、働きかけを行ってきました。現在、結成の意思表示を受けている自治会もあり、結成への機運も高まっています。今後も結成に向けた支援を行い、研修や防災訓練を通じて、防災意識の啓発に努めます。官民協働により低炭素エネルギーの調達やエネルギーデータを活用し、地域におけるエネルギーの最適化について検討します。平成26年に設置した太陽光発電の活用、照明器具のLED化や庁舎内の節電により、低炭素社会実現に向けた取り組みを区民へ啓発していきます。	産学官、地域等と連携、情報共有を行うとともに新潟薬科大学が持つ知的資産や学生の感性とパワーを積極的に生かしながら、まちなかの活性化や健康づくり、里山の魅力発信、人財育成に取り組まれました。また、アキハスプロジェクトの取り組みとして、区の魅力を積極的に発信する新たな仕組みや、女子の視点からまちづくりを考えるプロジェクトを通して、新たな人財の発掘・育成を行い、まちづくりに係る企画の実施につなげることができました。今後も各方面と方向性を共有しながら、個々の取り組みがより主体的となる活動を進めていきます。区民の声を区政に生かすため、区内11のコミュニティ協議会と地区懇談会を開催し、地域課題の解決に向けて意見交換を行い、具体的な対応を検討しました。また、地域や団体と連携し区の宝を総合学習に活用することで地域への愛着や誇りを育むことができました。今後も地域や団体と連携し住民主体の取り組みにより、区の魅力を高め、地域に愛着や誇りを持ち、誰もが自分らしくいきいきと暮らし、「住んでよかったと思えるまちづくり」を進めていきます。本年度の自主防災組織結成数は2自治会となり、結成世帯数率の目標を達成しました。また新規に結成した自主防災組織の訓練のバックアップを行い、地域防災力の向上を図りました。庁舎管理における省エネルギー化については2つの選挙による空調の業務時間外運転により、電気使用量が増加しました。しかし、空調の温度管理の徹底や、執務室の照明LED化を行い、電力量の増加を最小限に抑えることができました。

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号) 0250-25-5711

年度	2019		
組織名(部)	秋葉区役所	組織名(準部・課・機関名)	健康福祉課
組織の目的	区民一人ひとりが、健康で安心して暮らし続けることができるよう、地域住民や関係機関と連携・協力しながら、地域包括ケアシステムの構築や秋葉区の特徴を活かした福祉や健康づくりなどの各支援施策、事業に取り組むことで、更なるサービスの充実に努め、「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の基本方針である「人がつながり ともに支え合う やさしいまち」を目指します。		

作成日	平成31年4月1日
修正日	
評価日	令和2年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	2016実績	2017実績	2018実績	2019目標	2019結果			補足・参考指標
1		地域包括ケアシステムによる生活支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、継続的な支援と仕組みづくりに取り組んでいきます。	・「支え合いのしくみづくり会議(協議体)」を拠点とした地域における支援活動の推進	移動・移送支援モデル実施日数(日)	—	—	—	48	44		地域包括ケアモデルハウス「だんだん・嶋岡」への移送(週1回)の体制ができました。3月は、新型コロナウイルスに関する対応としてモデルハウスを休止したため、目標日数には達しませんでした。	達成
			・認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進(キャラバンメイト連絡会の支援)	認知症カフェ開催回数(回)	—	—	—	6	9		キャラバンメイトが中心に運営し、9回実施しました。区内4か所で開催し、認知症高齢者とその家族の憩いの場となりました。	達成
2	3	「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、地域住民や関係機関と連携・協力しながら、健康づくりや福祉課題を解決する取り組みの支援と活動を推進します。	・障がい者への理解を広げ(つながる)、仲間づくり(つなげる)の推進(つながる支援ファイルの作成・配付、保護者支援の講座の開催)	つながる支援ファイル利用者数(人)	—	—	—	30	87	・つながる支援ファイルとは、医療・保健・福祉・教育・労働など各機関の支援を1冊のファイルに記録し、経年的に管理し、保護者が所持するもの	放課後等デイサービス事業所などに活用方法を周知し、目標を大きく上回る87人に配布することができました。今後も、新規サービス利用相談時等に配付を継続していく予定です。	達成
			・身近な子育て支援の充実(子育てサロン・ベビーサロン・ベビマセミナーの開催など)	子育て講座等の開催回数(回)	—	—	—	100	122		今年度からの取り組みであるベビママセミナーも多く参加者があり、本年度末までに合わせて122回の子育て講座等を開催しました。	達成
			・フレイル予防事業(予防教室・講座、各地域での予防普及啓発・支援など)	フレイル予防教室・講座・地域イベントでフレイル予防の実施延参加人数(人)	—	—	—	600	1,660	・フレイル予防教室・講座・地域での健康教育やイベントで、フレイル予防の実施	2地区でフレイル予防教室を実施した他、地域での健康教育でも積極的にフレイル予防の啓発に努めました。フレイル予防活動が地域で広がるよう今後も継続予定です。	達成
3		窓口サービスにおける市民満足度のさらなる向上を目指します。	・各係の業務からテーマを設けて課内研修会を実施	研修会実施回数(回)	7	7	7	7	7	・各係(担当)1回以上の実施	7係が各1回の課内研修会を実施し、目標が達成できました。今後も、職員のスキルアップと窓口サービスの向上に向けて取り組み、市民の満足度のアップを図ります。	達成
4		継続的に業務改善を実施し、効率的・効果的な市民サービスを行います。	・各係で業務や窓口等における継続的な業務改善を実施	改善実践報告の件数(件)	27	27	21	21	21	・各係(担当)3件以上の取組	業務の効率化・市民目線での利便性の向上等市民の満足度のアップのため、業務改善に取り組み、目標は達成しました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>地域包括ケアシステムによる生活支援として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、「支え合いのしくみづくり会議(協議体)」を拠点とし、支え合いしくみづくり推進員(生活支援コーディネーター)を中心に地域における支援活動を推進します。</p> <p>また、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進するため、区民や地域の団体、教育機関等とネットワークづくりを行い、区民協働による「認知症高齢者と支える家族にやさしい秋葉区」を目指します。</p> <p>「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」の理念を広く区民に周知・普及しながら、「人がつながり ともに支え合う やさしいまち」を目指し、地域住民や関係機関と連携・協力し、秋葉区の特徴を活かした、高齢者・障がい者・子育て・健康づくりなどの各支援施策、事業に取り組めます。</p> <p>窓口サービスにおける市民満足度のさらなる向上を目指し、職員のスキルアップを目指す研修会や継続的な業務改善を実施し、効率的・効果的な市民サービスを行います。</p>	<p>支え合いのしくみづくり推進員と連携し、地域における支援活動に取り組み、地域包括ケアモデルハウスへの移送事業を行いました。引き続き、地域住民や関係機関と連携し、支え合いのしくみづくり会議(協議体)を拠点とした地域における支援活動の推進に取り組めます。</p> <p>秋葉区キャラバンメイト連絡会の活動を支援し、研修会や市民向け講演会、認知症サポーターステップアップ講座など企画・運営したほか、認知症カフェを開催しました。今後もキャラバンメイトをはじめ関係機関と連携し、認知症に対する意識啓発を図って行きます。</p> <p>地域の住民や関係機関と連携・協力しながら、フレイル予防事業をはじめ、秋葉区の特徴を活かした高齢者・障がい者・子育て・健康づくり等の各支援施策・事業に取り組む好評を得ました。今後も、区民一人ひとりが、健康で安心して暮らし続けることができるよう、更なる福祉サービスの充実に努めます。</p> <p>市民サービス及び市民満足度の向上を目指すため、職員のスキルアップ等、人材育成に重点を置いた取り組みを実施しました。また、業務の効率化・市民目線での利便性の向上等市民の満足度のアップのため、継続的な業務改善に取り組み、目標を達成しました。</p>

組織目標管理シート

問合せ先(電話番号)	0250-25-5331
------------	--------------

年度	2019		
組織名(部)	秋葉区役所	組織名(準部・課・機関名)	産業振興課
組織の目的	区の特徴である「鉄道・花・里山・石油」のキーワードに関連する施設を活用し、交流人口の拡大を図ります。また、関係団体と連携して地域経済の活性化と賑わいのあるまちづくりを進めるとともに、地域の特性を踏まえた農業政策を推進することで、地域農業の持続的な発展を目指します。		

作成日	令和元年4月1日
修正日	
評価日	令和2年3月31日

No.	部区 組織目標	組織目標	主な取組(事業)	指標						目標達成状況	評価	
				項目(単位)	2016実績	2017実績	2018実績	2019目標	2019結果			補足・参考指標
1	4	里山の魅力発信や里山と結びつけたまちなかの活性化、次世代につながる環境教育を行います。	・里山未来創造事業	Akihaマウンテンプレーパークの参加者数(子供参加数)	1,020	1,843	1,802	1,800	1,907	過年実績に基づき、毎月1回あたり平均47人(H31年度は計40回実施。但し、コロナ対策で2回中止))	夏休み前まで悪天候の日が多かったが、施設の認知度の向上等で、昨年度以上の来場者がありました。後期はコロナ対策の影響で3月の2回を急遽中止としました。	達成
		地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。	・小須戸温泉健康センター管理運営	小須戸温泉健康センター入館者数(人)	108,068	113,997	126,917	105,000	121,613	H31年度においては、料金改定(増)及び大広間のリニューアル工事、さらにはコロナウィルスの影響で3月の来館者が大きく減少しました。	施設の改修や補修工事で臨時休館がありましたが、指定管理者の自主事業「あひるぶろ」などが好評でした。しかし、3月だけでコロナウィルスの影響で5,000人以上の来館者の減少がありました。	達成
2	4	石油の世界館管理運営	・石油の世界館管理運営	石油の世界館来館者数(人)	10,965	9,957	10,855	11,000	9,242	里山ビジターセンターとの連携等で集客を図ってきましたが、目標の到達ができませんでした。	隣接する里山VCの利用者に向けて里山ガイドから施設のPRに協力いただきました。しかし、自主事業がなく、展示も固定しているため集客を十分図ることができませんでした。	未達成
		・Akihaレール浪漫<ren-ketsu> ・磐越西線SL定期運行推進協議会 ・阿賀野川ライン観光協会	磐越西線沿線自治体及びJRとの連携協力する新規事業数	—	—	—	3	4	・SLばんえつ物語号成人式 ・2019新潟DC期間中に相互観光事業 ・ごっつおまつり2019 ・観光案内所オープン	7月27日、新津駅にてSLばんえつ物語号20周年記念式典を行いました。同日に観光案内所を開設。新潟DC「鉄道三昧ツアー」を実施しました。新潟DCに合わせ福島県との広域連携事業に取り組みました。	達成	
3	4	起業家の養成講座やシェアオフィス・コワーキングスペース(若者の居場所)の開設を通じて秋葉区の将来を担う社会起業家を育てます。	・社会起業家プラットフォーム運営 & 地域人財発掘・養成事業	社会起業家育成講座(参加人数)	—	—	—	20	31	商店街で開店する人や商店街に關係する人を発掘して育てています。シェアオフィスは商店街の空き店舗での開設を目指します。講座は2回実施しました。(第1回16人 第2回15人合計31人)	第1回は北九州家守舎の方を講師に招き先進地事例の講義を、第2回は起業に関する基本的な事項について講義を行いました。いずれも起業に関する意識の高い方から参加いただき好評のうちに終了しました。	達成
		「もち麦」を核に、農業・福祉・健康づくりの各分野で様々な取組を展開します。	・Akihaもち麦プロジェクト推進事業	区内もち麦作付面積(ha)	—	4	9	10	10	10	翌年収穫分のもち麦播種面積は目標通り10haに設定しました。	もち麦の生産面積は目標通り10haの作付けができました。
4	4			区内産もち麦の取り扱い店舗数	—	—	8	10	18	もち麦を取り扱う健康レストラン等の店舗数としました。	フードメッセや原宿ネスパスでの販売促進で18店舗で取り扱いしていただきました。	達成

取り組みについて(今年度重点的に取り組む内容や目標設定の考え方など)	取り組みの結果について(評価内容と評価結果を踏まえた今後の方針など)
<p>商店街の活性化に向けては秋葉区の将来を担う社会起業家を育てることで新たな事業、起業に意欲的な市民が街中に集まる機会をつくり、さらに活動の場を提供することで持続的なまちづくりを担う人材の創出に取り組めます。</p> <p>「秋葉丘陵」として親しまれている緑豊かな里山の魅力ある資源を活かすべく、「里山未来の種プロジェクト」において策定した行動計画に基づいた取り組みを実施していきます。また、里山施設の運営については、里山ビジターセンターと共に石油の世界館の利用者拡大に向け、指定管理者や他施設・関係団体等と連携しながら積極的な広報発信や魅力ある自主事業の実施に努めます。さらに里山エリア内に位置する小須戸温泉健康センターを里山の新たな魅力として活用する事業を実施します。</p> <p>秋葉区の地域資源として産業の大きな柱となっている花き生産、鉄道のまちとして栄えた歴史を伝える鉄道資料館や車両製作所などの鉄道関連施設、全国一の石油採掘量を誇った当時の施設が残る石油文化遺産、ほぼ全ての品種が揃う日本最大のポケ公園を併設する小須戸花とみどりのシンボルゾーンなど、これら区の大らかな魅力を十分に活用するほか、磐越西線沿線自治体との連携によるイベントの開催により、観光・交流人口の拡大を図ります。</p> <p>農業関連では、米主体の生産から新たな土地利用型作物への転換を進めるため、機能性に注目が集まる「もち麦」を核に、農業・福祉・健康づくりの各分野で様々な取組を連携しながら展開します。</p>	<p>新津駅東口の「あ！キハ」の観光案内所開設や観光ボランティアとの「鉄道まち歩き」実施などで、商店街に一定の賑わいを創出しました。特に夏休み期間中に来られた方への情報提供等は好評で、鉄道の街にいつのリピーターに繋がるものと考えます。社会起業家育成事業では、講座参加者が合計31名あり、参加者と地域で取り組んでいる事業者を中心に、具体的な空き店舗活用の動きが出始めるなど効果がありました。講師を中心に令和2年度に向けて継続した事業になりました。新津丘陵に点在する里山VC、石油の世界館、花の湯館の事業連携と宣伝・誘客への取り組みによる集客効果が見られましたが、年度末にコロナによる影響があり来館者が大きく落ちこみました。里山で活動する11団体の各種事業は里山保全・活用に大きな役割を果たしています。里山活用事業として定着してきたAkihaマウンテンプレーパーク事業は、次代を担う子ども達への里山体験による人格形成に有効との評判です。また、里山ボランティアガイドによる里山ガイド事業も多くの方に利用いただきました。次年度に向けてはコロナ対策と合わせて事業実施を検討していきます。秋葉区の基幹産業である花き・花木の振興と活用事業については、各施設・関係団体と連携し更なる事業を実施し誘客に努めました。とりわけ県、生産者、関係団体と連携し、日本一の生産量を誇るアザレア県新品種の次年度販売開始に向けたPRを行いました。土地利用型作物「もち麦」の生産拡大に伴う販路拡大と消費拡大に努めました。とりわけ販路拡大は、フードメッセや原宿ネスパスなどの産地PRの場を有効に活用し、秋葉区のもち麦のブランド化と合わせ消費者確保に繋げられるよう福祉・飲食の各分野で秋葉区産もち麦の取り扱いを進めました。</p>